

平成16年度第3回全学FD アンケートのまとめ

質問1) あなたは、いずれの区分からの選出参加ですか。

全学教育実施部会 15名 各部局 109名

質問2) あなたは、いずれの区分からの選出参加ですか。

教養教育科目(人文系) 11名 教養教育科目(社会系) 7名 教養教育科目(自然系) 7名
 言語文化科目(英語) 8名 基礎科学科目(数学) 8名 基礎科学科目(物理学) 18名
 基礎科学科目(化学) 14名 基礎科学科目(生物学) 11名 情報処理科目 15名
 修学指導 25名

質問4-1) 第2部「分科会」(午前の部)において、18年度問題とかかわる各科目の問題点がどの程度提起されたとお考えでしょうか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
ほぼすべて	1名	11名	12名
ある程度	10名	57名	67名
まだ残っている	3名	14名	17名
かなり残っている	1名	3名	4名
無回答	0名	24名	24名
合 計	15名	109名	124名

質問4-1 記述回答) 大切であるが提起されなかったとお考えの問題があれば、お書きください。

(全学教育実施部会) GPA制度の弊害(学生が安易に高得点をえやすい科目のみを選ばざるを得なくなる)、導入によるメリットが弊害によるデメリットを上回るとは思われない / 講義参加(出席)している学生数の適切な教室スペースの検討 / 教養部を廃止したが、大学進学率が増加し、入学する学生は多様化した結果、逆に低年次教育の重要性が増加してきている / 教え方のFDが必要 / 学生の変化に関する報告で同意できるが多かった / 適切でない学生が一定割合入学してくる。早い時期にやり直しを指導するシステム作りが必要←修学指導の経験から / 全学教育を九大全体で支えるための構造改革が必要 / 一年前期での専門学科カリキュラムの導入の必要性、大学入学の学問的目的、目標を学生自身がとらえる環境をつくる / きめ細かい教育が必要であるという点に関連して、助手の活用を考えられているのか

(各部局) 社会構造の改革、教育の不平等化が今日の現状を招いている / ゆとりの教育で生きる力、考える力を養うことを目的としているが、逆にこれらの実現がなされていない。その理由について明らかにし、対策をとる必要がある / 私を含めて、高校での学習内容を教員が十分に理解していない /

学習内容を必要、不必要の尺度で判断することは危険である。今の学生がそう考えるとしたら、それは今の社会の価値基準の反映に他ならず、学びによる達成感を大切にしている教育姿勢が社会全体として現れるような働きかけが必要でないか / 化学Ⅱでは従来取り上げていなかった「核酸」や「細胞」「医薬品」などの新項目があります。高校の先生の教育（再教育）が必要、大切ではないでしょうか / 高校と大学の抱える問題について再認識しました / 大学生としての勉強のしかた / 文章を書けない学生（理系）が急増している / 学位審査のため、参加できませんでした / 教育の改善（FDを含む）の方策は、教員の労働量が有限であることに鑑み、時間を主としたコストを考慮することが不可欠である / 日々の授業において、学生の理解度を把握・理解しつつ、授業を進める必要がある。本来、学生と教員とのコミュニケーションでなされるものであるが、組織としてそれを支援するシステムがあってもよいのではないかと / 最近の学生は素養が足りないと言われるが、実際どれくらい足りないのか、今の科学技術を支えるor向上させるにはどれくらいの知識と素養が必要かをはっきり提示する機会を設けることが必要ではないか（多分今の学生はそれらを意識していなくて「足りない」と言われても何のことか分からないのでは） / 単なる現状説明でなく、教育に関する 全般的、個別的？啓蒙の場とすべき（全国・文科省の動静、調査・アンケート結果など） / 「18年問題」により入学して来る学生が、今の学生と比較した場合に、さらに何がどの程度（単純に「学力低下」という言い方だけですむ話なのか）具体的に問題となるのか、（どんなところがさらにひどくなるのか）実際には入学してみないとわからない？ / 学力の低下という問題と対照的に向上した側面は何もないのだろうか？ / 新課程によって全く「新しい新入生」が入って来たとしたら、彼らは別の面で秀れた点を有しているのかも知れないので、それを私自身も発見したいと思う / 全学教育のカリキュラムが学生のニーズをよく考慮した形式かどうか、あるいはそのデータに沿った改革案が計画されているのか不明なこと / アンケートがヒキョウ者製造の機会になっていること / 学力の二極化は、数の増えた大学院にも既に生じている / 「ゆとりと個性」の現高2生には、それ自身の特徴があるはず。それを生かす方法、カリ等も考慮すべきである / 高校との連携が必要 / H17年度から工学部は移転を始めるが、H18入学生は移転の影響をまともに受けることになります。この対策についてもディスカッションする必要があるのではないのでしょうか。特に全学教養教育 / 大学入学試験制度の在り方 / 日本の社会が、「学問」を尊重することを失くしている現実を改めるにはどうするのか / 大学で習得した知識の社会的な応用力を養う教育 / 公立高校の状況だけでなく、私立高校の状況はどうか？ / 18年度問題の観点の一方、新カリキュラムによる成果の評価あるは評価方法の議論もあっていいのではなかろうか / 六本松での体系的な教育が必要 / 教育のアウトカムが不明瞭、アウトカムを高めるためのシナリオ作りが重要であると思われる / 新指導要領のマイナス面がしばしば取り上げられるが、プラス面は本当はないのか、について / 新課程の中学、高校の教科書を研究する様な具体的な教員団活動が必要 / 問題のある学生に対応するため沢山話しをする時間が必要だが、そのための時間をとることができない / 教育を教師-学生という関係ではなく、学生同士が教えあう、問い合うといったことを支援するプログラム・企画が必要と思う。とくに一年前期でどのようにクラス、クライメイト (climate) を作るかとう企画など… / 必修科目に関する能力別クラス編成の時間割作成上の可能性の有無 / 同一クラスレベルの異なる学生がいる場合、上位下位どちらに合わせるべきか、クラス分けすべき / 教員専任のスタッフを確保できないか（研究、教育、運営を平等に負担するのか） / 高校だけでなく、小、中学校の状況も把握し、対応を検討する必要があるのでは？ / 学生の学力の多様化に際し、どのレベルに照準を置けば教育効率を上げられるか / 学生・高校生の“大学教育への期待”はどれくらい考慮されて、大学教育の計画はなされているのだろうか？ / 全学教育のカリキュラムが教員の能力を引き出しやすい形式かどうか、あるいはそのデータに沿った改革案が計画されているのか不明なこと / 高校の現状を知りたい、そのための連携が一層必要 / アカデミックハラスメントの問題 / 体系的日本語（国語）教育が必要

質問5-1) 第2部「分科会」(午後の部)において、各科目において採りあげられた問題の解決策は、有効だとお考えでしょうか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
かなり有効	3名	7名	10名
ある程度有効	6名	59名	65名
まだ不十分	5名	18名	23名
かなり不十分	0名	3名	3名
無回答	1	22名	23名
合 計	15名	109名	124名

質問5-1 記述回答) 解決策の有効性(問題解決の実現)を困難にする(妨げる)要因は何だとお考えでしょうか。

(全学教育実施部会) 教員の教え方に問題あるという認識を持つ教員が少ない / 必要な措置を取ることに必要なマンパワーの不足 / 高校における現状の把握が不十分だった / 全学的理解・支援体制(態勢)がなければ改革は難しい

(各部局) 時期と費用 / 学生の競争を促進しうる要因をつくる必要がある / 学生の学力や学ぶ姿勢の多様化への対応は、担当者(マンパワー)の拡充なしには困難 / お金 / マンパワー / 講義室の制限、1クラス当たりの学生数の多さ、学部教育との連続性の維持 / 大学生が、興味がないことを勉強をしないといけないと考えていないこと / Web教材開発のための支援(人員・予算) / カリキュラムや教え方の議論は、実際に講義で成果を上げることに必ずしも結びつかない、これは難しい / 問題点が提起されても、有効な具体的解決策をみいだすには時間が不十分 / 18年度問題に閉じないが、学生に何を教えるべきか(専門教育の前提教育?基礎知識?各学問分野の基本的な考え方?)についての共通したコンセンサスがない / 農学部では学科配属が決まるのが、2年次10月のため、低年次において専門性に視座をおいた、物理、数学教育の導入が難しい / 基礎、専門、大学院を通じての考えが示されていない(個々の改善と全体の改善の同時性が必要ではないか) / 人(教官)の数と予算、TAの使い方の自由度 / 教員が学生をどこまで知るか(教員側本位になるとやはり解決しない) / 会議の事前準備の不足、関係教員の会議の認識の低さ、場当たりのFD出席、会議開催 / 1年次あるいは全学共通教育のみならず専攻教育まで含めた考え方が必要(見直しなりが実際必要なのかという点も含めて) / トップダウンで年限を決めて進んでいるスケジュールについてほとんどの教員が認知していない / 教育は全学の問題であるが、意見の形成、合意の形成の仕方が不透明。したがって一応決まったと思われることが、実効性をもたないことになりがちである / 全学の教養教育に対するスタンスが不明確。大学のあり方に関するそもそもの議論だから / 文部科学省 / 問題が深いところにあって、対処療法的に解決できるようなことではない / 硬直化した時間割や、講義室の数 / 18年度問題の分析が十分でなく、就学指導の現状の有効性の議論がさらに必要がある / 学生の能力を推測しきれないこと / 情報不足(具体的な各高校等の状況) / 問題はないのだから解決策は不要である / 情報処理のスタート時から、学生に能力の隔差がありすぎる。どこに標準をあわせたらよいか / リーダーシップをとるWGがない(情報科目の全学教育企画委員会が動いていない) / コストの問題(PCの数を揃えるなど) / 高校における“情報”の実施状況が不明 / 施設(計算機環境)に依存する部分が多い / 実態がまったく見えていない点、数年の経過を見る必要がある / 「情報科目」に特有の教育範囲の広範性(高校においても、情報A、B、Cと細分化されている) / 部局毎の意向がそれぞれ異なっており、大きな視野でとりまとめる必要がある / 九大独自の教育理念よりも、文科省からの示唆への対応が最優先になってしまうこと / これまでの改革が、大学のあるべき姿から乖離してい

る / 教員の意識改革 / 大学インフラの未整備 (e-learningを行うとした場合) / 大学内の教員間の知識格差 (認識の違い) / パソコン配備等, インフラの整備

質問6) 全体会における他分科会の報告は、別の視点や新たな考察の示唆を得るといった点で、意義のあるものでしたか。

	全学教育 実施部会	各部局	合 計
かなり	0名	10名	10名
ある程度	9名	57名	66名
何とも言えない	4名	16名	20名
あまり意義がない	0名	4名	4名
全く意義がない	0名	1名	1名
	2名	21名	23名
合 計	15名	109名	124名

▼就学指導分科会への参加者の回答

質問4-2) 発表や討論において採りあげられた対応策は、今後(18年度以降)、各部局で新たに導入するにあたり、また、拡充するに際して、参考になりましたか。

おおいに 9名 ある程度 10名 何ともいえない 3名 参考にならなかった 0名
無回答 3名

質問4-2 記述回答) 修学指導の導入(拡大)を困難にしている要因は何だとお考えでしょうか。

研究室(卒論のため)又はゼミ配属までは、個々の学生に対応する機会が少ない / 単なるさぼり学生とうつ患者の見分けを誤ると取り返しがつかない悲劇を生む。うつ患者にガンバレと応援するのはタブー / 修学上の問題は、かなり個性が強いので、個別に対応せざるをえない / 修学指導に対する学生の認知度あるいは必要性が少ないと思う / コストの負担 / 1年次の重要性が強調されているにも関わらず、箱崎と六本松の教員の連携体制がない / 低年次と専門教育でのキャンパスの分離、教員と学生、低年次と3~4年生の接触不足 / 18年度問題との関わりという観点からのとらえ方とうより修学問題対応の現状紹介であった / 教員の意識(教育や学生指導を研究と同等の重要性をもつとはなかなか考えないような) / 教員の認識の不足(学生が修学上の困難に直面していることについて) / 担当教員の負担、担当以外の教員の不理解 / 教官の意識の差が大きい。研究至上で学生嫌いの教官も多い / 教員の意識の不足、化学科の教員の取り組みは評価できます / 部局外資源へのアクセス(連携)の面倒さ / 学生のMentalityに関することは、部局対応ではなく、全学的に対応すべき / 教員のコミュニケーション能力の問題

質問5-2) 修学指導の対象となる学生の出現は、カリキュラムのあり方(大学での教育実践)と関連があるとお考えでしょうか。

かなりある 9名 ある程度ある 4名 あまりない 7名 まったくない 1名
無回答 3名

質問5-2 記述回答) 関連の有無をめぐって、お考えのことをお書きください。

学習意欲の低下は学歴社会の崩壊の必然 / 修学指導対象者のほとんどが、まわりの学生とのコミュニケーション不足に原因が集中しているように思われる。カリキュラムよりも、学生同士あるいは学年間(縦のつながり)のネットワークを強めることが大事だと思う / カリキュラム内容の難しさ、カリキュラムの内容が実社会でいかに役立っているかを実感する機会を授業で増やす必要がある / 個々の科目(特に全学教育)の意義が学生に理解されず、学生は単位を取ること(のみ)を目的に受講していることが多い / 18年度問題の具体的把握とカリキュラムによる対応について、現行の手法がどの程度有効かというような議論の展開が必要になる / 動機づけが不十分で、筆記試験の得点で単位認定を行うほとんどの現在のカリキュラムは、学生の修学意欲の低下、目標の曖昧化を産み出すに当然と思います / 大学の教育が詰め込みになったら、ついてこない学生が増える / 学生にMotivationを持たせる努力が不足している / カリキュラムの構造の影響を明らかにすべきかも(内容についてはよく言われているが) / 受入れた学生を責任を持って指導する義務があることを教員は忘れてはならない / 大学の魅力を示す講義の提供が必須・しっかりとサポートが必要・面白い(?)企画も必要 / 不適応学生が出た場合、どのように対応すべきなのかのノウハウについて教員が学習できていない

▼自由記述回答(参加分科会別)

教養教育科目(人文系)

大学(高等)教育の位置付けを安易に小・中・高の教育改革に合わせて変えるべきではない。また、評価方法について、短期で成果がでるものという仮定のもとに設定すべきではない / 入学者の学力については、その都度、それを前提として、問題点の抽出、対策法の案出を行うしかないと考える。その際、学部卒業時のシステムの到達基準を明確にし、それへの過程の具体をプランニングすることが重要となる。低年次教育もこの過程の中に位置付けられて、はじめて意味を持つものとして、その意義の再考がなされなければならない。そのような観点から、人文系コアの編成について意見を述べるならば、「歴史の認識」は一般性を抽象性のより高い「史学概論」、文学系コアは「文学概論」、哲学系コアは「哲学概論」として再編されるべきであろう / 九大全教員、全国全教員、高校関係者への周知徹底、情報開示が必要です / FDに参加していつも感じる事柄ですが、“全学教育”とか“教養”とかの大学全体としての定義とか確認作業が不十分でないか、又、前回のGPAの議論と今回のテーマはどう関わるのか / 真に独創的な人材を人材するには、学問への意欲の啓発が十分か、そのための学問的環境がベストかについて最優先すべきである / 長期的論座をもたない改革は、長期的論座の欠落した人間を育て、日本(世界)の将来への貢献は期待できない

教養教育科目(社会系)

各部会(分科会)を設置するのであれば、野放しにするのでなく、高等教育総合開発研究センターの方を各分科会担当という形で付けて、議論の方向付けを行うといったことを行われてもよいのではないかという感想をもちました / 全学教育のカリキュラム改革は18年度スタートを目標としているようだが、今日、担当の方から素案を伺っても方向性がよく理解できなかつた(とくにコアの案は何を改革(?)しようとしているのかサッパリです。まず必要なのは、(1)現状の問題点・学生の不満(とくにコア)をよく調査して明確にし、それを解決するための改革案をつくるべき。(2)教員の能力を十分に引き出すためには、教員の調査も行い(アンケートなどの形で)、例えばどんな基礎教養科目が必要か、自分が担当したいか、などの意見を集めるべきではないか。と思いました。また、分科会報告で複数の先生から言及された少人数ゼミを大幅に増やすべき、という意見には同意します。

教養教育科目(自然系)

自然系はあまりに広すぎてはじめは何を話して良いかわからなかった。科目によっては話し合いのためのリーダーが必要 / 分科会の運営について、誰が議長をするのかetc. 全く指定されていず、議論の始まりetc. があいまいになっている。このあたりの準備をもう少ししておいて欲しい / コア教養科目の再編予定etc. の資料を事前配布(再配布)して欲しかった / 分科会の準備が悪い。誰が会を進行するのか? 内々で決めるにも「内々で決める」という案内すらない / 分科会の座長etc. は事前に決めておくべきでは?

言語文化科目(英語)

能力別クラスの導入とGPA制度との関連付けがあまりに不透明、能力別クラスの導入とその評価のあり方について早急かつ綿密な検討が必要ではないか? / 参加者リストを見ると、ざっと200名の方が全学FDに参加している。年に3回実施だから、計600名の方が丸1日拘束されていることになる。これは2人の教員1年分の時間に等しい。経費的には3000万円くらいかかっているのではないか、費用対効果の面で言えば、全学FDはやめた方がよい / (中) 高の先生もよんで実情を聞かせてもらいたかった / より良い教育実施のために、教員側の努力は言うまでもないが、それを支える事務サイド、大学全体の理解と支援がなければ実現しないことが多い。このことを今後大学全体として考えてもらいたい / H18年問題に対して効果的な措置を取るには資金と人員が必要、その保証は取れるのか?

基礎科学科目(数学)

修得度別クラス導入が必要と思います / 9:30-17:00は長すぎて、疲れて困りました / 分科会の人数が多すぎて、能率が悪いと感じた(例えば数学の部分科会に数理から10人も不要、教育関係の責任者を含む2, 3人で十分)

基礎科学科目(物理学)

最初からテーマを絞って、それに関する集中した論議を行って、FD分科会の時間を短縮すべき、1日中使うのではなくて、午後1:00~5:00ぐらいで十分 / 入学生のレベルの変化に対して、どこまで対応し、どのレベルで教育水準を維持するのか、大学全体で方針を定める必要がある。今回のFDはボトムアップの意見であり、収束させるのはなかなか難しい / 未履修学生について、これをどう教育するかの話が多かった。このことについて理解できなかったのは、1) 大学入学後に必要であるのなら、なぜ入学試験の時(センターが無理なら、個別の九大入試)に出題しないのか?(高校時代に九大入試のためには必須化しておけばいいのではないか) 2) 1)について大学で基礎から教え直すムダをするより、入試でSelectした、大学ではさらにHigh Levelの講義をすべきと思います。3) 下を底上げするより(勉強しないものを救う方策を考えるより)やる気のある学生をより伸ばしてゆくことが、これからの九大には必要なのではないのでしょうか / 入学してくる大学生の学力低下はたしかに問題と思うが、それ以上に問題と思うのは意欲をなくしている学生が多くなって2極化しているようになっている事が問題と思う / まとめが、座長の恣意的なものになっているような報告があった / 学生(世の中)の実利を追求する姿勢に対応する、考え方、人員配置など追求する必要がさらにある。どのような手法が世の中にあるのか調べた結果を一般の教員にも知らせ、議論をより深くする必要はある。担当された先生には、たいへんですが / 中学、高校と通常の学校教育の他に塾における学習とかが増え、常に受身の形で学習してくる最後の姿が、結果として大学に反映されており、自発的に学んでいく意欲をなくした学生も多くなっているのではないかと思う / 全体を見据えた高所からの議論ができない内容であった。

基礎科学科目(化学)

化学の場合、高校で物理I, IIを学んでいることが(実際)必要である。医学部(?)で行われて

いるように、春休み（入学前）に物理を学んでいない入学者向けにスクールを開講する等、対策が必要である / 基礎科学科目は高校レベルの内容からみて、はるかに専門的になっており、各学科に進級して専門科目を勉強する上で必要な内容なのか、学生は疑問に思っている。学習の動機付けが必要である。各学科に専門教育と基礎科学科目の関連性について説明資料を作成してもらい、講義担当者に周知させることが必要である。高校の物理、化学、未履修者に対して、入学前に予備校で学習させることができないか。大学から予備校に開講を依頼するか、又は予備校講師を大学で非常勤としてやとう / 発表者は準備をしっかりとやってほしい / FDで論議された内容がどこでどのように反映されるのか、その結果を参加者に知らせて欲しい。ここでの論議の結果が実施されるのかどうか不明確である / 分科会での議論がどこにどのようにいかされていくのでしょうか？ / 今の教育のゆがみ、しわ寄せを、我々が如何に引き受け、解決していかなければならないか、その議論に明け暮れるだけでなく、もっと現場の声を中教審へ伝え、今のおかしな「ゆとり教育」を是正するような努力もすべきであると思う。また、中・高の教師と大学の教員が全く別の世界の間であるかのようなシステムも問題でないかと思う。一貫した教育システムを作り上げるために交流が必要であると思う / FDについて、この時期にこのプログラムで行うことは大変疑問である。全体会で各分科会の報告を聞いての仕方あるまい。せめて半日程度のプログラムで進むよう検討できないものでしょうか / 「動機付け」という観点が非常に大切だと思いました。化学部会でもあったのですが、積極的な取り組みが期待されます / 大学教員は研究のみでなく、教育の上手・下手をもっと客観的に評価され、表に出るようにすれば、もっと意欲が湧くのではないかと思う。

基礎科学科目(生物学)

少人数だけでなく早く研究室に出入りさせるなど、出来のいい人をのばすことも考えたらいいのでは？ / 高校のカリキュラムが変わるからといって、その都度大学のカリキュラムを変えて行く必要はないと思う。九州大学教育憲章あるいは学科ごとのアドミッションポリシーに相応しい学生が来るのならば、九大のスタンダードを変える必要はないでしょう / 問題の相互理解は重要なのでこの会の意義はあったと思う / (分科会) 自分の専門としている分野を議論しているので、客観的な、その分野の重要性などがわかりにくい。つまり、自分の専門分野は、多くの人（専門としない人）にとっても重要だという前提で考えている。専門分野を専門とする人とそうでない人との教育の仕方のちがいをどう考えたらよいかもよくわからない / 午前中の講演3題は、前回のFDの基調講演よりも具体性があり、たいへん良かった / 最初の講演に関しては、パワーポイントのスライドに要点をまとめてほしいかった。詳しい資料よりも、淵田先生のパワーポイントをCDで配る方が、実効性があると思う / 分科会は、グループリーダーと書記をあらかじめ決めておくべきである。これは、会議を開くうえでの基本的な技術の一つであり、次回からぜひ改善して欲しい / 分科会の討論内容は文書化して、ウェブ上などで公表すべきである / このFDで決まった事が、どの程度拘束力をもつものでしょうか、学務、教務、入試関係の部会との関連がみえないと集まる意義が不明である / たまたま、私のいた分科会では現役若手高校教員の話が聞けたことがよかったと思う。難しいことかもしれないが改めて高校の先生と少人数の教員（大学側）とで、話し合いをもつ機会があるとよいと思う。

情報処理科目

分科会の取りまとめ等の役割分担が事前に決められていなかった。ただ、集まっただけでは議論が始まらない / 情報処理科目については18年度問題とは別にさまざまな問題があるようである。しかし、それをこのFDで扱うのは時間の無駄である / e-learning教育に対する積極的なとりくみをしないと、九大としては致命的になると思う。全学的な取りくみを推進してほしい。できる学生にはより困難な問題を、できない学生にはWeb-CTをつかって徹底的な復習をやらせるなど。E-learningは非常に有効である。システム生命科学府はそのとりくみをスタートさせたところであるが、全学的なサポートがほしい / 動機付けをやれば、学生はほんとうに勉強していくのか？ 基本的素養がないことを恥じないのでは？ (新人類、アルバイトの為、価値観の多様化、少子化、社会環境の変化) →入試で、どのよ

うな学生を取りたいのか、動機付けされる勉強をしたいと、見識を示すべき / 六本松地区の設備の悪さと狭さは意欲をもって九大に入学した学生に失望を与える。教育の中身も大切であるが、環境の改善を急ぐべきと考える / それぞれの科目に対する実施状況等を実際に調査し、その実態を把握できる様な資料の用意が必要である / 提供される情報が不十分である。

修学指導

高校時点で6割の学生が、授業について行けない以上、大学の講義をわかりやすくすることは不可能では？ / 学習意欲の教育法、創造性の教育法があるか？ / 出口での到達度の向上と学力低下の乖離の問題 / ゆとり教育とつめ込み教育の、大学の学業成績と学生の学力の相関性、きめ細かな教育を大学でも実施する程、受け身の学生を増やしてしまう矛盾、教育と研究のエフォート割合の混乱 / ゆとり教育に変わっても無気力学生が減らないのはなぜか？ / 広い教養を求めるとGPA制度が相反する正確をもつという指摘は重要だ。GPA制度の再考（導入中止）をぜひ願いたい / 基礎学力の維持（この中に実用英語を含む）という課題と「教養」科目のあり方は区別して論じるべきでは？ / ここでの議論や具体的改善案を実行できる財政的裏付けがなければ、このようなFDは「アリバイ」としての意義しかないのでは？ 理事会メンバーがすべて出席して現状認識を共有しなければ意味がない / 学部・大学院の構成や特性は多様であり、全学が一同に会するのは、講演や問題提起のみでよいのでは？ / 大学でのカリキュラムが如何に役立つかを実感すれば、「何の為に勉強するのか？」という疑問が払拭し、モチベーションの向上につながると考えられる / 修学指導の分科会に関しては、他学部の努力が具体的に紹介され非常に参考になった / 午後の全体会議はやや冗長な感じがした。15:30ぐらいまででよいのではないか。多くの教員がこういったFDに参加することが必要だろう / (全体討議への雑感) - 全体討議の意義は、全学的な意見交換が行われたことをwitnessした(目撃した)ことを事実上保障するものである。そのようなプロセス的な意義はあるものの、全体的な方針は相変わらず、目新しいものはなく、本当にこれで大丈夫なのかと不安を抱く発表もあった。- 難しい話だとは思いますが、自分の子どもに九大をすすめるかと言われると「今は止めておいた方がよいかも」と言いそうでこわい。- 昔も今も教員の努力の外で学生はたくましく育つかもしれない / 学習意欲の低下した学生が増加している。問題の解決を先送りしている場合が多い。大学としての方針を明確にすれば、学生も早く、退学、転学などの決断がつきやすいと思われる / 修学指導について、単位不足や心理的問題をかかえている学生への対応はもちろん必要であるが、表面には現れない社会性の欠如(大学内ではうまくやっていたり、単位だけは要領よくとっている)などの問題について対処できるシステムづくりも必要でないかと考えます / 何が問題として起こり得るか(教員側の危機感のなさを含めて)よく理解できた / 「入学した学生は必ず卒業できるように支援をするのが大学の仕事」と考えるべきかということ、必ずしもそうではないと思う。ドロップアウトを早い時期にすすめるというのも必要ではないか？ 諸外国の大学ではどのような状況なのでしょう？ / 出来れば日程(年末の授業日の実施)を変えて欲しい / (18年問題への意見) 18年問題で最も脅威を感じたのは、時間外自己学習の低下である。自宅学習なくして、授業について行け、かつ単位が取得できたことを大学でも続けられるとおそらく困る。なぜかということ、大学は時間外自宅学習を促進する方向にカリキュラムを変えようとしていると思われるからである。自己学習をしたかどうかを評価すべきであり、「ポートフォリオ評価」を行うべきである。そうすればGPA導入も納得できる / 大学院生で、研究室に来ず、引きこもっているケースが少なくない。個別の対応では困難になっていると思われる / 小早川先生の実績(ウェブサイト)はすばらしい。全学FDの通知は3か月前に担当者に届くようにして下さい。毎回、日程調整ができない教員が無理矢理本務から引きはなされ、参加させられています。お願いします。